



豊後大野市教育委員会

---

---

---

---

## 会議要録

---

議 題：第7回豊後大野市図書館及び資料館建設検討委員会

日 時：平成29年2月17日（金）18：03～21：05

場 所：豊後大野市中央公民館視聴覚室

欠席者：上野正博委員

---

### 1. 開会 18：03～

事務局（広瀬）

本日、委員さん欠席の届出が上野委員さんから出ております。

杉浦委員さん、渡邊円世委員さんは、20分ほど遅れるとの届出いただいております。

### 2. 協議事項

委員長	事務局から経過について説明を。 前回の宿題があり、今日は自主的にどういう提案を出すか。 それを中心に、みなさまのご意見を賜りたい。 事務局から、議題に沿って1からご説明をお願いします。
事務局 （小野）	2. 協議事項 （1）前回までの協議について（確認） ～配付資料の確認～ <ul style="list-style-type: none"><li>・レジュメ</li><li>・基本構想素案（3～4）</li><li>・基本構想素案（5）</li><li>・イメージ（渡部私案）</li><li>・基本構想進捗確認チェックリスト（案）</li><li>・図書館等建設検討にかかるアンケートについて</li><li>・能登川町総合文化センターに関する資料（A3） （チェックリストを見ながら前回までのおさらい。）</li></ul> 経緯、現況と課題は終了しました。 コンセプトは9割おさらいしましたが、入れた方がいい文言や、入っていない文言などの修正で、基本構想素案（3～4）P.8上、基本理念の中で「生涯学習」の趣旨を踏まえてということで入れました。 P.9、（5）保育園のあとに、認定こども園を入れました。P.10、（9）中学校区、学社統合を訂正しました。

---

---

	<p>前回、前々回から、アンケート実施についての意見をいただいたので、実施することとしました。2月10日付で案を送付していると思います。ご指摘いただいた内容を修正してアンケートを実施することとしました。まず自治委員を対象にアンケートを実施しています。清川町自治委員会は2月10日に依頼しました。三重町区長会は幹事会でお願いをしました。2月15日に千歳でアンケートを実施しました。市のホームページでも準備が整い次第、募集する予定です。</p> <p>また公民館まつり会場でも実施予定です。そして各公民館、支所、歴史民俗資料館、エイトピア、朝倉文夫記念館で実施予定です。子どもを対象に中学校と、その保護者対象に実施します。図書館利用者にも実施します。一般の方と、図書館利用者のアンケート内容が若干違いますが、ほぼ同じ内容です。一次集約、二次集約で3月頭に示したいと思っています。</p>
委員長	<p>前回のものを文言として入れた。 アンケートは事務局に申し出るということだったので、特別な意見がなければ次に行きたい。</p>
18:08	
委員長	<p>(2) <u>4-1 新豊後大野市図書館サービス計画</u>について 私から説明する。 前回、このコンセプトを考える中で、具体的な姿をという意見があった。 今回は、より具体的なものを用意した。 こういうもの考える時には、用地が決まりある程度条件が決まった中での設定だが、まだ用地が決まっていないので、こうしたらコンセプトや構想が活かせるという表や図面を資料として配布した。</p> <p>(3) <u>5 規模・レイアウト</u>について 1) <u>新図書館に必要とする機能</u> 必要な機能、自分の今までの話、皆さんの意見、図書館・生涯学習等の理念を踏まえて、私案を盛り込んだ。 主な役割区分として、4つある。 ① 管理・保存 これがないと動かない。 ② 交流・展開 ここに力点が置かれている。より多面的な図書館利用、国内外で取り組まれるようと課題解決、まちづくりをして重要視されている。 図書館の望ましい基準などを今の文科省などが説明している中の文言もこれを踏まえているだろう。 ③ 児童</p>

	<p>④ 一般 児童・一般書として4本柱の区分としている。イメージを表にしたもの。</p> <p>① 管理・保存</p> <p>●事務・管理 これは当然。この中で力点を置かないといけないものは、防災・危機管理が非常に重要。</p> <p>●企画・研究 新しい施設や、今後の図書館を動かすキーワードとなる。ワーキング工房とあるが、交流展開を動かすためには、色々なアイデアを出したり実際どう具現化するかの機能が求められている。</p> <p>●アウトリーチ拠点（公共機関等が現場へ出向いてサービスをする） 館外の活動。外に手を伸ばして拠点となるもの。</p>
18 : 14	杉浦委員参加
委員長	<p>学校支援。公共図書館と学校が連携をすることは時代の趨勢。多くの図書館が取り組んでいる。文科省がかつて、人口40万人でモデル的に実施した。熊本市、宇都宮、豊橋市…47候補に上げたが、今では30か40ある。それがだんだん浸透し始めて、市のレベルでも取り組み始めている。町でも行っている。公共図書館の本を連絡車で届けるシステムの拠点となる。熊本市民図書館で行っている。</p> <p>●稼働型広域対応機能 自動車文庫のこと。広域的で、図書館とのアクセスが環境的に厳しいところへ車で届けるシステム。</p> <p>●拠点型広域対応機能 学校と地域図書館の結合型を視野に入れ、すぐにではないが意識して機能をもつことが重要。</p> <p>●保存書庫 本は古くなるが、ストックすることは図書館の使命である。蓄積をして、機能的に収容能力を増すための手立て。</p> <p>●開架書庫 目新しい、たらしみ図書館のイメージ。書庫には入れないが、上のところに入れるスペースがある。古い図書も見せる、段階的にするような書庫。</p> <p>●連絡・調整書庫 アウトリーチ活動と非常に関係する。地区館や分館が出来たときに調整するための書庫。どういうものが流れているか管理をする。</p> <p>●マイクロ庫（マイクロフィルムを保管する倉庫） 今すぐではないが、今後、市史を編纂するときには欠かせない。</p>

保存機能として 100 年以上は使える今でも有効な役割を担っている。

●防虫・防黴対応前室

古い本が虫害に冒される。アイスクリームを入れる冷凍庫。マイナス 30 度で、一時的に虫を殺すことができる。お金がかからないので将来は必要。貴重だが処理しないとまずいということが起こり得る。

②交流・展開

かつては、本を借りたら帰るといったものだった。今は、本を使って新しい知恵を使った人が、さらに知恵を広めるという機能が図書館に求められている。にぎわい、たまり場、集う機能が重要視されている。

●ラウンジ

家庭が第一。職場、学校はセカンドスペース。これだけでなく、サードスペースのあり方が問われている。どの公共空間でも持たせる。そういうものを全体の中にちりばめた中に。

●ラーニングcommons（当初は学生の学習支援を意図して大学図書館に設けられた場所や施設のこと）

結び繋ぐ機能。学びの広場。

●グループスタディ

グループで共同研究

●アクティブラーニング（学修者が能動的に学習に取り組む学習法）

プロジェクター使って、新たなまちづくりを考える。武蔵野プレイスが活発に展開している。

●寛ぎスペース

畳で高齢者の方がゆっくり寛げるスペース。

●創作活動スタジオ

若い世代に図書館に魅力を持ってもらおう。兵庫県稲川町の図書館の 2 階に防音装置を造って、楽器演奏や作曲をしたりなどのスペース。

●地域情報発信拠点

GIS、自ら地図作りに関わる動き（岸和田図書館など）高校生と街を歩いて、ソフトが使えるグーグルのような地図にクレジットさえ書けば自由に使える地図。街を見て、ジオパークの拠点などの地図作りをするなど、ため込んでいく機能を持たせる。

●情報交流スペース

伝言板の活用

●展示スペース

書画・写真・原画等の展示をする。「あったらいいな。こんな図書館。」の中に要望があった。

●郷土を知るスペース

ささやかな情報でもファイリングすれば、本になる前の情報、チラシや広報などで知ることができる。

●芸術交流スペース

朝倉文夫記念館と関係性を調整しないといけない。この他に、現代アートなどを展示する。

●YA コーナー (ヤングアダルトコーナー)

青少年向け資料

●PC ラウンジ (パソコンラウンジ)

今は当たり前になりつつある。Wi-Fi を置いて、ネット検索して情報を享受。ノート PC を貸し出しているところもある。

●ピアノコーナー

ライブラリーコンサート向けにピアノを置く。

●カフェコーナー

障がい者の社会参加の場として、カフェを運営する。教育委員会と福祉とのコラボ。能登川、海士町が行っている。

●異分野交流コーナー

様々な分野の人が集まって交流。

●創作コーナー

アクティブラーニングに近い、図書館ツールを使って生み出す空間の演出。

③児童

幼児コーナーは書架の高さが低い。書架の平均が、大人は 1.5メートル、子どもは 1.2メートル (それ以下)。

赤ちゃん絵本や紙芝居など、手に取りやすい工夫。

読み物、児童向けの小学生新聞、雑誌などを用意する。

赤ちゃんが来られる＝お母さんも利用する。

語りとお話スペースは、集会室でお話会をしたり、現実から離れ夢空間を作ってあげる。おとぎ話や意識を集中するための空間。

④一般

・豊後大野学コーナー

豊後大野学コーナー、直入郷、豊後大野郷、臼杵、岡藩、各自治体が〇〇学のコーナーとして取り寄せている。

・グループ支援コーナー

団体活動の中で、子育て支援の情報を集めたり、行政の資料なども集め支援

- ・地域・行政コーナー  
地域に関する刊行物。役所が出す年鑑、逐次刊行物。
- ・暮らしと生活のコーナー  
暮らしに関する書籍展示が出来るコーナー
- ・レファレンスコーナー  
問等に応える、利用案内など、図書館として非常に要となるところ。
- ・フロアワークステーション  
カウンターでなくフロアで誘導して、利用者と本を結びつけていく働き。いま機械化されている図書館の中で、非常に役割が問われている。これが本来の図書館の役割。
- ・逐次刊行物コーナー  
新聞・雑誌の逐次刊行物と、季刊・年刊・ムック。別立てで用意すれば、軽いか重いかの違いだけで、利用に変化があるだろう。
- ・地図コーナー  
5万分の1、2万5千分の1の地図、自治体の地図、GIS。これは図書館のひとつの武器。
- ・楽譜コーナー  
今まで忘れられたコーナー。楽譜は流通の経路が違う。廃校の校歌の楽譜を置くなど。
- ・レコードコーナー  
回想法で認知症が進まなくなったり、脳が活性化されるという事例がある。古写真、懐メロとかの資料を盛り込もう。

#### イメージ（渡部私案）

土地の形状によって左右されるが、機能を優先して、図書館部門と資料部門を分離し、資料館と図書館で共用スペースも織り込んだ私案である。

資料館構想の折り合いも考えないといけないが、図書館と資料館が合体して、同じような活動が展開されることを予測し、資料館部門のところに共用のものを寄せた案。

それぞれ区分してあるが、何故こういうことをするかと言うと、ピアノのところでクローズすると2つの機能が分断されることによって、図書館と資料館の閉館日を変えても目的的に利用できる。左側が目的的に使用。節電対策もでき、時間的に区切ることもできる。屋外も使ったオープンテラスも入れ、回廊展示は休館日でも中に入らずにショーウィンドウみたいに見られる。

2層式書架は、1階を開架書庫にし、書庫の中に入れる書庫ゾーン。2階はクローズして入れられない。どこにあるかがわかれば閉架書庫は職員が探す、開架書庫は自分で探せる。たらみ図書館のような構

	造（中２階）で、収容冊数を増すことができる。平屋で長方形を意識した案としている。豊橋市、和歌山市民図書館、那智勝浦。三重県岩上野から依頼を受けた。部屋面積は文部科学省の基準とかを考えたときに、機能的にクリアできる案としている。
吉岡委員	管理・保存について、古文書は図書館と資料館、どちらで扱うのか。もしくはこれ以外で扱うのか。
委員長	明確に区分するのは難しい。ものによっては図書館。概ね二次資料を図書館が所蔵していることが多い。地元出身の方の著作物を永久保存として区分している。 このコンセプトは、朝倉文夫記念館とかと棲み分けしたときに、企画展示は常設展示をもたない。企画展示室から大展示・集会室まで扉を開ければ、大展示会ができる発想。ピクチャーレール、スポットライト等で場合によってはそういうことも可能。オープンデスク中心に企画プランする。ミュージアムエデュケーターを配置する。この部分だけで年間２万人が来場する。お金をかけずに共用スペースを上手く使う。
後藤綾子委員	学習室はどうか。
委員長	それについては、グループ工房とか、従来の学習室というより、ランチを付けて一般書架の中にデスクを設けたり、本に近づけるようにしている。受験生のための図書館ではないということの到達点である。また（現在の）中央公民館で学習している子どもと役割分担を考えている。使っていただければイメージできる。
田原副委員長	委員長の私案を見て感じる。こういうものをきちんと運営するために優秀なスタッフが必要ではないか。事務的な手当は。ここで検討することではないと思うが、一番大事なことだと思う。
委員長	滋賀県は、1990年代から人材を日本中から集めてリードしてきた、次の世代が育っている。今の図書館がどういう方向を目指すかが重要で、今いる方がこれをベースに、全員素人でも地域に密着して住民の方と学びながら研鑽していく。導入段階では難しいが、どういう方向を目指すのか計画的にしていく必要がある。後で話す。資料館の議論がまだされていないので、この中でさせていただいた。
杉浦委員	前回の議論とだぶるかもしれないが、管理保存の拠点型広域対応について、詳しく聞きたい。
委員長	MLAK 連携（ミュージアム・ライブラリー・アーカイブ・公民館の連携）は、文部科学省でも出てきている言葉。地域の資源を結ぶ。市内のそういうところと連携取りながら、うまく活かすという前提でつくっている。俵楽の里、神楽会館とどう関わっていくか、ハードルが高いが今から準備すればそういう時代がくる。開館時には

	<p>到達できないかもしれないが、将来的には必要となってくる空間。</p> <p>1970年～1990年にかけては、机、デスクは限りなく減らし、借りた本は家で読むという発想であった。滞在時間はなく、くつろぐという発想もなかった。</p> <p>それが、コンピューターの出現により、滞在型が出てきて、知恵を育んで学校のクラブ活動的なものをつくって、地域住民に返していこうというスタイルに移行しようとしている。</p> <p>朝倉文夫記念館、歴史民俗資料館とどうリンクするか。繋ぐ、結ぶ機能が今こそ問われている。</p>
杉浦委員	<p>今ある機能が相乗効果をしていくという前提で、ユネスコエコパーク（認定）で祖母・傾の両山をもっている豊後大野市の中央で、緒方の公民館、俵楽の郷とか、今ある施設に付加価値をつけて、デジタルセンター的な機能になるのであれば、環境図書館のような形で（私が所有している本などを）寄贈したい。原画展（松原いわき）を寄贈したい。</p> <p>1万冊の野鳥の会の機能を使っただけなのであれば、喜んで寄贈したい。</p> <p>今ある機能をより充実していくことももちろんだが、そこも付加価値を付けて、三重がコアのミュージアム、総合多機能、学校図書室、公民館図書室の人も大事だといいつながらサテライトミュージアム的な方向性。その辺りはどうか。</p>
委員長	<p>個々の議論は、窓口があって水先案内のもので、専門的なものをここに取込むということではなく、NPOがつくって、図書館に行ったらそこにたどり着けるような機能。ジオサイトに関する書籍を見て、ランチに行ったらもっと凄いものがありますよ、図書館を通してたどり着けるような。図書館は、市民が一般的な情報が入手できるというイメージ。</p> <p>南阿蘇村の「絵本の国」は、50から60のランチを束ねている。出典がすぐにわかる。出典に行けばすぐわかる。（環境省の）デジタルセンターが地域にあるという。</p>
杉浦委員	<p>その可能性があるという形で是非展開していただければ。三重町がいちばん多機能で、大前提。旧5町の市民のメンバーも参画意識ができるような仕掛けとして、サテライトも十分伸び得る可能性はある。</p>
委員長	<p>MLAK連携を意識して情報を取込むようなセンター。個々でランチを造ったりは予算的に無理な話。まとめることを情報発信、アナウンスできる取組みが前提。</p>
衛藤委員	<p>規模・レイアウト含めて説明があったが、中身については言うことはない。</p>

	<p>これだけのコーナー、機能が棲み分け可能か。平屋でそこまでできるか疑問。</p>
委員長	<p>10年間の実績があるので、自信を持って言える。2007年のライブラリーオブザイヤーの最高賞を受賞した。経験をベースに（できると）言える。能登川町も実現できている。</p> <p>コーナーとは、書棚に見出しを付けるようなもの。一般的には分類に従っているが、かたまり群を作っていくイメージ。ふらっと出会えるような仕組み作り。コンサル、職員と協議をしていけば実現は可能である。</p>
衛藤委員	<p>誰もが利用しやすいユニバーサルデザインが可能かと感じた。</p> <p>中央公民館を拠点に各町の図書館との連携、現状も協議する必要がある。清川町の場合、神楽会館に図書室はあるが、率直に言ってあれは“倉庫”である。非常に暗いところを出し入れして、立ち止まって読むというイメージではない。そこの連携も議論する必要がある。</p> <p>加えて、地震対策で、各町の公共施設、支所、公民館を含めて平成32年までに建替えようという計画があるので、そこも含めて議論する必要がある。</p> <p>今の神楽会館の倉庫みたいな（図書室）では、（中心に）図書館を作っても全然スムーズにいかない、イメージがわからない。もう少し活用しやすくして。ちょっと金を出せばできるが。</p>
委員長	<p>公民館図書室と図書館との機能は違う。この状況は他市でも全く同じ（状況）である。</p> <p>長崎で、年間100冊の利用が無く、1日1人も来なかったが、開館したら24万冊の貸出しをした。人口5,000人の町で。志賀も1,700冊くらいしか利用がなかったが、24万冊。</p> <p>無人状態では人は来ない。子どもの居ない学校に先生は居ないと同じで、本を読めないのでは人は来ない。学校図書室にも司書が必要。</p> <p>公民館、学校、旧支所のどれを利用するか。地域活動とリンクする発想。</p> <p>どうすれば利用されるかと言うことを今まで考えていなかった、という事を考えて、個々は頑張っているが三重町は全国平均の利用状況。あとの町は、コンマ以下の利用。全市的に平均レベルに上げるため、地区との連携も必要。</p> <p>広域利用も含めやっていくことも重要。</p> <p>東近江市では、役場を図書館に、学校に図書館を連結させたケース。図書館を単独に建てたケース。有数の利用状況。</p> <p>少子化で2018年問題を契機に学校がクローズ、あるいは縮小に</p>

	なる。その時の活用策がひとつと、旧町の役場の活用も課題である。それぞれがどうしたら利用できるか、図書館の利用に照らした改修リニューアルも必要。次の段階と思う。
吉岡委員	確認したい。今の段階では、資料館を併設するとともに別に作ることも決まっていない。委員長の私案では、併設したときに共用するスペース、ラウンジも共用するというイメージか。
委員長	当時歴史民俗資料館は、770 万円の補助金で建設した。現在は補助金がないので、新たに歴史民俗資料館を作ることはない。歴史民俗資料館は、歴史、民族に関すること、博物館は人文とかも含めている。美術館は朝倉文夫記念館。緒方の歴史民俗資料館から共同企画ということで参画するイメージ。朝倉文夫記念館と緒方歴史民俗資料館とコーディネート、プロデュースする人が必要。埋蔵文化財の速報展を行うこともあり得る。 文化財保護行政と資料館がちゃんぽん（ミックスにされている状況の様）になっているが、行政は違う。博物館は、次なる施設整備をするときに今の課題をどう解決するか、なお今までの行政サービスを落とさない形でうまく調整しながらやらないと。要は仕切り直しをして新しいことをやるという発想。
吉岡委員	そういう意味では色々なアイデアはできるわけである。例えば朝倉文夫記念館、歴史民俗博物館の企画展示室を使って巡回展をするとか、今ある資料館に興味を持ってもらう仕組みとしてはいい。資料館の今後の議論を深めなければと思う。
後藤綾子委員	イメージについて、移動図書館車のスペースは。
委員長	アウトリーチの外に覆いを作ればどうにでもなる。 自動車文庫だけに限定すると、広域のフォローもできないだろう。
後藤綾子委員	イベント広場が必要と思うが、雨天時は困る。雨がしのげるスペースが必要。
委員長	私の経験だが、回廊展示、雨が降っても可能なイベントをした。ゲル。薪能をした。雅楽や神楽をやってもいいと思う。 文化ホールに行くよりくだけで、雪駄履きで来る感覚。改まって行くという感じではなく、そこは今後の設計図の中で練っていただければ実現可能。これはあくまでたたき台である。 決して大きな施設ではなく、平均的な施設。人口 4 万人にふさわしい妥当な線かなと、独断で。ちなみに私は 12,000 平米の敷地に 3,000 平米の建物面積を作った。国の基準に近いものを堅実に作る方が無難ではないか。 これに抜けているものが、大展示・集会 ホールと一般書架の間に壁があり、野外スクリーンを設けて青空映画館や夜間利用も可能。

	<p>イメージ案は、基本設計や実施設計の中で煮詰まっていくもの。たたき台案としてみていただければ。機能として提示したところである。</p> <p>規模について事務局小野さん、説明をお願いします。</p>
事務局 (小野)	<p>その前に、衛藤委員からあった公民館図書室との連携は、図書館を中心としたそれを取り巻く環境における、もう少しマクロな計画の話がされるのかなと思いましたが、その点について逆にお聞きしたいと思います。</p> <p>先生のおっしゃった中学校を拠点とした部分と、衛藤委員がおっしゃった公民館図書室との連携、棲み分けの点をもう一度押さえさせてもらいたいです。</p>
委員長	<p>公民館図書室は、公民館が図書館のない時代の図書室の位置づけ。新しく図書館が整備され、分館としての機能を高めるとなると、市の考えだろうが、朝地中学校の学校図書館を地域開放して、時間を区切って開放するというのも1つの案。全国でも進んでいて、学校司書も兼用できるため、非常に注目されている。それをあてがうか、新たに建物を作るか。(新たに作ると)またお金がかかる。</p> <p>学校図書館に司書を置かないといけないので、人との関係や資料の扱いを考えると、学社連携を活かせば、将来的には学校と地域図書館を合体させて、そこを分館の位置づけにするということになると思う。ただそれは時間のかかること。ひとつの中央図書館に対して6つの分館。</p> <p>清川中学校は、2階に図書室、1階が職員室である。これらを入れ替えて(2階に職員室、1階に図書室)セキュリティに配慮すれば、1万冊を超えない基準なので、そこに公共図書館を義務付けし3~4万冊になれば、子どもたちの知的要求を公共図書館を使うことによって、学を豊かにすることもできる。</p> <p>一昨年から、学校図書館の支所の配置が法に盛込まれたので、そこに人も付けて、公共図書館と上手く連携を図ると言うことは財政的にも説明がつくのでは。ただこれは十分コンセンサスをいただいていないところである。一つの案として。</p> <p>駐車場の問題があるが、市役所や周辺の公共駐車場がある。これを、図書館のみなし駐車場と考えれば、市役所が土日でクローズしているときに図書館のイベント等できる。</p> <p>移動図書館車は、近年では1,200冊や2,000冊レベルでは利用者の要求に応えられない。停留所にその時間に行かないと本に出会えない。福祉と絡ませて、グルリンバス(市街地循環バス)で行くとかいうことも可能。個々でできる限界と今後の課題を精査しないといけない。そういう道も考えないと。私の頭にはある。</p>

事務局 (小野)	この部分は、基本構想を作るにあたり、図的にイメージしやすい部分。今、先生のおっしゃった部分を言葉で書いても難しいので、公民館図書室は独自の運営をしつつ、新図書館と強いパイプで繋がるのは、朝地の地域開放を含めた朝地中学校図書室（それ以外の中学校図書室も含めて）との連携、移動図書館車は福祉との連携を視野に入れて計画を作るということによいでしょうか。
衛藤委員	<p>各町の公民館にある図書室との連携、アンケートを採ることで肩の荷が下りた。お金をかけて作るので市民の皆さんと一緒に考えていくということでもいいこと。お互いの議論の中で肩の荷が軽くなった。</p> <p>(清川の)自治委員会で議論したが、ほとんどの自治委員は図書館を利用していない。いや最近では全員が利用していない。皆が利用する図書館を作るんだ、そして地域にある図書館（公民館図書室）を利用して、(図書館と)連動しながら中央公民館に足を運んでいく、そういう取り組みを目指しているという話をしたばかりである。事務局（小野）からも話があったら、そこの連携もちょっと議論して図書室も充実させて図書室との連携を・・・。</p>
委員長	<p>ちょっと(衛藤委員は)誤解をされている状況。(全ての施設整備を行うという)一足飛びに行くのは無理。清川公民館をクローズしていくというのは難しい。具体的なイメージで、すぐ(転用)できそうなのは、朝地中学校は建物の外にあるので。ところが神楽会館を・・・。</p> <p>人が必要である。清川公民館(神楽会館)図書室に鍵をかけたままではダメ。利用が始まれば、どんどん広がっていく。全ての学校でということではなく、できるところから少しずつ外堀を埋めて。</p>
衛藤委員	清川支所を神楽会館に移設しようという具体的な話があるのだが、今のままでは使えない。学校に作るのがいいのかな。神楽会館に多くの市民が集まるので、そういうことを狙って。せつかくあたる(改修する)わけですから。またあたって後でいろいろするのはもったいない。
委員長	私も(衛藤委員の意見と)同じであるが、神楽会館、大野公民館も、人を置きさえすればいい。人を置ける条件を考えたときに、学校を利用する。図書館の分館として中学校を利用する。サービスする人を置かないと使えない。既存の施設も活用しつつ、将来的には学校図書室も有効利用するというところでとどめるのはどうか。あと分館には人を配置して。例えば犬飼公民館の図書室に今では考えられないプライバシーを侵害した、個人の名前が見られる状況にある(図書カードのこと)。これは図書館のイメージではない。そこに図書館の機能があれば、そのことは克服できる。そこに人をどうつけ

	<p>るのかには問題があるとうか。そういうスタンスを持ちつつも現状を、既存のものを活かしつつという程度にとどめて。よろしいか。</p>
19:20	<p>(渡邊円世委員参加)</p>
杉浦委員	<p>連携できるということを基本(期待)として、三重町だけにできるというよりは、将来的には広がりがあるという意味も含めて。</p>
委員長	<p>三重だけでなく、各地域も機能を活かしながら考えていこうとするスタンス。</p>
後藤綾子委員	<p>拠点を作ることをやっている。答申に「地域も」ということを盛り込んだとしてもそれを監視する機能が、どうなるのか。答申後も意見を出しながら、公民館図書室、学校図書室を良くしていくため携わっていけるのかどうか。</p>
委員長	<p>どんなにいいプランを出しても、実効あるものができるかどうかは踏み込めないところで、この場では構想を立てて委員として見守っていくしかない。</p>
後藤綾子委員	<p>あとはお任せか。</p>
委員長	<p>市民がする。</p>
後藤綾子委員	<p>市民が監視できるのか。</p>
委員長	<p>議会がする。個々の権限ではない。</p>
委員長	<p>2) 規模 規模にいこう。</p>
事務局 (小野)	<p>委員長より4案を示していただいたところです。今までの意見を総括して、事務局でこれが有力でないかというものをたたき台として議論をいただきたいと思っています。</p> <p>こちらから一方的に示すというのは事務局としてジレンマがありました。</p> <p>前回いただいた意見の中で、比較的大きな小中学校があり、市内唯一の高校が三重町にある、子どもたちの学習拠点、駐車スペース、公共サービス機関、駅、商業施設の近くで賑わいのあるところに図書館があったらどうか。</p> <p>資料 P.15 の 1) ~4) の立地条件を踏まえて、ただ、考慮すべきは、財政的な負担ですが、土地、建物の購入を考慮することを考えると市有地となり、かつ、皆さんからいただいた意見で最有力候補として出せるのが、P.14 の旧公民館となります。</p> <p>これについて意見があれば提案いただきたいです。</p>
委員長	<p>賑わいのあるところか、中枢のところかと、2つあったと思う。</p>
田原副委員長	<p>ここ(旧公民館)しかないでしょう。</p>

吉岡委員	確認だが、赤い枠が旧公民館の敷地で、現在の図書館も取り壊して使える、駐車場として使えるということか。体育館は残るのか。
事務局 (小野)	<p>体育館、柔道場とも社会教育課の管轄で、現在のままとなります。現図書館をどうするかというのは現状では言えない状況です。</p> <p>今言えることは、更地になるであろう旧中央公民館の部分に建てたらどうかということです。</p> <p>今後話が進んでいく中で、旧図書館を壊して駐車場にすればそこでイベントもできるということも話の中で出てきたとすれば、答申の中でご意見をいただきたいです。</p>
委員長	提供できる空間は限られている。理想を追うことも可能だが、賑わい空間の新たなところか、現在の場所かということになる。現在の場所でベストという意見もいただいたがどうか。
衛藤委員	中央公民館を解体するのだから、有力な候補地である。今の旧中央公民館跡は暗いのではないか。本庁舎の前か、今の図書館の前の方に出した方がいいのではないか。
委員長	意見は無いようだが、駅近くの賑わいのところというよりも、現在のこの周辺でよいということでしょうか。機能を果たせるか。財政も考慮しつつ。検討委員会としては「この周辺に」ということで留めておくということでしょうか。
一同	(了承)
事務局 (小野)	<p>渡部私案を、図書館と資料館を併設する形で出させていただきました。</p> <p>資料館の機能とはどういうものをいうのか、あるいは今現在、豊後大野市の文化財係がどういう仕事をしているかを聞いていただいて、豊後大野市が求められるものが見えてきた上で、このイメージ図でよいでしょうか。あるいは、もっと足した方が、または引いた方がいいのかという意見をいただきたいと思いますが、委員長、そういう流れでよろしいでしょうか。</p>
委員長	<p>資料館を意識していなかった。</p> <p>歴史民俗資料館があって、朝倉文夫記念館があって、現状、図書館も展示するので共用するということで出した私案。</p> <p>能登川町総合文化センター、人口 28,000 人当時のもので、図書館と博物館が一緒になっていて、(図面上) その下別棟に文化財資料室。なぜ別棟かということ、文化財行政と資料館は本来別にある。</p> <p>学校で例えると、県庁の県教育委員会と学校が一緒にあるというのが今の状態である。朝倉文夫記念館は美術の世界。博物館は全て扱うが、美術館には自然系がない。もう今歴史民俗資料館には補助金がない。新たに作るとなると、博物館、資料館になる。</p> <p>能登川町は、常設展示をもたない博物館。常設展示のものは借り</p>

	<p>てきて企画する。図書館と共同作業が円滑になる。</p> <p>埋蔵文化財センターは別の建物にしている。明確な役割ができ線引きされる。埋蔵文化財センターも博物館において企画で参画する。ただ組織が違う。</p> <p>これは私の案だが、旧中央公民館に図書館と博物館を作って、現在の図書館を文化財センターにするのが早い。裏面性の高いものができてくる。</p> <p>発掘部門は、工事をしていて埋蔵物が発見されるとすぐに現場に急行する、出て行く必要がある。緊急対応が求められ、時間が限定され、企画と共にすることは非常に難しくなる。博物館機能を設けて、専従でプランを作るコーディネーター役の学芸員を配置。プロデューサーみたいな。そうすると今埋蔵文化財の業務をする人は遺跡整備、報告書を作ったりできるのでは。今の歴史民俗資料館は収蔵庫にすれば解決する。</p> <p>私が滋賀にいる時、2万人の町で博物館と2つの10万（冊）規模の図書館を持っていた。幼稚園舎に発掘した土器を保管して、第一収蔵庫、第二収蔵庫として企画に応じて出し入れをする。</p> <p>役割が異なるものをドッキングさせるのは無理がある。多少、博物館と埋蔵文化財センターは性格が異なる。</p> <p>博物館は市民の方にレクチャーする、教育する活動の場所。埋蔵文化財センターは掘り出してきたものを保存管理する。近しいが微妙に違う。収蔵庫は、どんどん増えてくるもの。</p>
吉岡委員	<p>（説明が）ちょっとよくわからなかったが、能登川町は、常設展示がない。豊後大野市の場合、緒方に実際常設展示していて、狭いので、今回資料館も検討ということになったと思う。今の歴史民俗資料館を改築することがスタートにあると思ったが。そうではないのか。</p>
委員長	<p>展示室になると、歴史民俗資料館という呼称は厳しい。展示空間は、1億円から2億円必要。そのことを踏まえ常設展示に2億円かけてするかということ。埋蔵文化財センターに若干の展示室はある。ようは文化財の保存センターである。朝倉文夫記念館の下に持って行くとかいうことも、立地的には可能である。みなさんのご意見をいただければと思う。</p>
渡邊円世委員	<p>今回の検討の一つに、三重町の埋蔵文化財は凄いものがある。旧公民館の一部にケースに入れているものに、大分県の代表になるものもある。常設展示の場所も若干は必要なのでは。刀剣・武具もあったらいい。</p>
委員長	<p>それなら企画展示室を常設展示室にすれば解決する。（渡部私案は）狭いようでかなり展示できる。（資料中の）オープンデスクの人</p>

	が埋蔵文化財センターと切り離して、展示室、集会室として博物館の機能は果たせる。対応は可能。
衛藤委員	この検討委員会は、基本的なところだが図書館及び資料館の建設検討委員会となっている。目的だが。市が収蔵する、展示する施設が十分でなく、適切な管理が課題となっている。整理をしないとイケない。資料館の建設はどこまでいくかと。曖昧である。貴重な資料が市内に展示されているというが、そういうのもひっくるめて整理しないと。今、(検討委員会の)趣旨と議論がかみ合っていないのでは。
委員長	資料館も博物館の仲間なので、どういう資料館とするか。収蔵スペースをどこにもってくるか。1万平米くらいは必要になる。分散管理という方法で常設展示が必要なものは常設して皆に見せる空間として。あとはバックヤードとして市内の何カ所かに収めるしかなかなか難しいのではないかと。
後藤順子委員	高野係長の(利用の)話を聞いてからと思ったが。三重町に石器時代からのものがあり、それを見に行ったら、図書館と違い1回行ったら見に行かない。農具は機械化したので大恩寺小学校に各教室に同じものを2階まで置いている。誰が整理するのかなあとも思う。民俗資料を豊後大野市の皆が研究に行ったりするためには、誰かがいて展示したりしないと。それは図書館と違うと思う。
事務局 (高野)	(高野文化財係長から現状の説明) 業務は大きく6つ、課題もあります。業務が多く、悲惨な状況。特に6つめのジオパーク推進業務、これは難しいです。収蔵庫全部満杯である。図書室の経費も低減しています。民具も「捨てなさい」と言われているがそれはできません。問題になるからです。収蔵スペースがそこに置いて保管したいです。十六山古墳出土品は超一級品、図書館と博物館になったときに、展示しないとイケないのではないかと思います。 ジオパークは外に出る事業が多いが事業をやめるわけにはいかないと考えています。それも含め博物館で行っていくことになると思います。
委員長	博物館と申し上げた。郷土資料館として作るのは可能。一箇所に物を集めると天文学的な数字になる。収蔵場所からすくい取って展示すれば可能と思う。大集会ホールで。歴史民俗資料館の機能を近場に、旧図書館にてできないか。企画展示のところに常設展示をするのは可能。ただ仕事の役割を区分しないと今のスタッフで教育普及できるか難しい。ある程度の線引きが必要。 図書館プラス郷土資料館としていくのが予算を考えればよりベタ

	<p>一な選択ではないかと思う。埋蔵文化財は一級品でも一回見たら終わりというの拭えない。だから図書館にくっつけて関心のない層に見ていただく工夫が必要。能登川も専従で普及活動している。文書の専門員も。人の問題に行き着く。ここでどうこういう演出をするかがカギとなる。</p>
吉岡委員	<p>資料館の名前自体はどうでもいいとはい過ぎだが、名称は色々な案があるが、大事なものは実物を見られること。図書館の本は、二次資料。実物にはかなわない。小中学生の子どもが本で勉強した時において、興味を持ったときに実物を見られることが大切。郷土資料館には自然資料があって、尾平鉱山の物は子どもにも他所から来る人にも見せるべき。未整理の鉱物や化石がいっぱいある。</p> <p>学芸員などの専門家を増やして研究できるスペース、学芸員がいられるスペースが必要。図書館と同様に管理部門も必要。特に市はジオパークにまちをあげて取り組んでいる。夏にはエコパークの登録もある。自然に関しては、外にも市民にもPRできる。図書館の2枚看板として出していないと、今年は（ジオパークの）再認定（の年）なので。</p>
委員長	<p>企画展示は、実物を持ってきて触れることができる空間、使える空間、二次資料も含めて。展示をおろそかにしているわけではない。物はバックヤードに。オープンデスクは研究しているのがオープンになっている。かなり上の学芸員が。琵琶湖博物館もその一つ。海外からも受け入れ質が高い。企画展示室を常設展示室に、オープンデスクは研究室に。大展示室、集会ホールにおいても企画展を。郷土資料館という名前を使ったが、豊後大野市資料館でもいいし、博物館でもいい。</p>
吉岡委員	<p>図のイメージが、資料館が付録に見え、そう感じてしまう。建物は総合文化室などにして、一部が図書館、一部が資料館としたイメージにしないと。そうしないと資料館が表に出てこない。前面に持ってこない。</p>
委員長	<p>左ウィングは博物館、右ウィングは図書館、それを全部総合文化センターにすると両方が薄くなる。きちんと条例上、別に設置する。そこは承知の上。ただおっしゃる通り面積が足りない。1万㎡くらい必要になる。図書館としても資料館としても企画展示を行う。それはコーディネーター能力が問われる。埋蔵文化財を並べてもだめで、学習活動が必要。そこが重要。今後それぞれの機能が薄まらないように、双方が相乗効果でいくようにしないと難しい。</p>
藤内委員	<p>今の歴史民俗資料館は、何でもジオと一緒にしている状態。それで新しい建物が建つと思っていた。今日聞いて「え！」と思った。ただ先生の話聞いて補助がもらえなかったら仕方ないなあと。せ</p>

	<p>めて歴史の分野とジオを分けて、と思ったが、そうすると MLAK 連携の部分でどうなるかなとも思った。</p> <p>大分市は職員とは別の業者の方がしていると思う。市民図書館にしても何にしてもプロの方がいるから、列ができるような集客をやっている。熊本県の御船町の恐竜博物館のようにコンパクトだけれど全て見えて作業風景も見られるというものを作っていた。せめてジオと分けて、大きいのは公民館で、歴史はこちらで。それも大切なのでは。</p>
委員長	<p>私も博物館も研究しているが、この面積では到底足りない。5,000 m<sup>2</sup>から 6,000 m<sup>2</sup>が必要。それを作るのは難しい。小さな町では、知床博物館。学芸員は5名いて優秀。</p> <p>まずは市民に使っていただくような有効利用するため。面積にも限界があり、図書館は図書館で（面積が）必要となると奪い合いになる。市民サービスが行き届くため考えると、分散しているものを集中させる必要が出てくる。そうすると既存施設をリニューアルして機能分散、役割分担していくことが大切。一箇所に全部集中は現時点では難しいと思う。</p>
後藤綾子 委員	<p>常設展示は、ほぼ人がいない。退屈な常設展示をするスペースは、今の（文化財係の）人数では足りない。企画展示のみにしたとしても、また担当がいる。大きいスペースよりも人数を増やす必要がある。緒方まで行けない、三重町の子どもたちを呼び込んで。</p>
委員長	<p>人を増やしてということは、検討委員会では言えない。まとめると、まず常設展示機能を持たせる。創作工房は体験学習室、図書館も使える。埋蔵文化財センターは別の場所に、かなりのスペースが必要。</p>
後藤順子 委員	<p>埋蔵文化財センターと展示を別々に考えた方がいいのでは。一つのところにおくのは難しいと思う。空いている学校に収めるとか。いちばん人が集まって見てくれるのはどこだと考えた時に図書館であれば何度も行く。農具などの収納場所と展示場所は別の方が良いと思う。そして展示する場所は見る人が多い図書館でとした方がいいのでは。</p>
委員長	<p>利用については（オーパムを例に）、ものすごくいいものをしないと人は来ない。一方で小さい町でも人口を超える人が資料館に押し寄せてくる。それは運営の工夫。利用されないと。</p> <p>常設展示の従来型のイメージでは、図書館は作れない。もしくは将来、要望が強くなって地道な活動を作っていくというのが妥当ではないかと思う。留辺薬というところは成功している。利用と展示の費用対効果、一方では考えないといけない。常設と企画でかなりの常設展示と企画展示、研究は能登川町のいちばん下のように。問題</p>

	は収蔵庫である。木片と金属片で収蔵の方法も異なる。
渡邊円世 委員	<p>(委員長に) 賛成である。常設展示と企画展示と、両方持つのが資料館の特徴である、臼杵でも県の資料館でも。半分は常設展示で貴重な資料を、半分は企画で、今回は農具の歴史、次回は鉱物など。資料は大恩寺小学校だけでも膨大なので無理。従来同様でいい。</p> <p>展示を主にして、展示の準備のための保管場所として 2,000 m<sup>2</sup>あれば十分だと思う。</p>
衛藤委員	<p>資料館について、職員も含め何か中途半端になりそう。職員も増えない。分散しては、職員が疲弊してしまう。資料館建設について全てをまとめるのは予算規模的に難しい。最小必要限度の常設展示と時よりの企画展示でとめない。</p> <p>本格的な整備については以降に考え直さないと図書館、資料館、どっちつかずになりそう。もう少し検討の余地があると感じる。色んな機能を果たせる程度でとめる。予算、土地があればよいが、そして職員も。</p>
委員長	<p>収蔵庫は分散しているが、コントロールタワーはこちらにある。職員はこちら(文化財センター)になる。埋蔵文化財センターは別に設けて企画には参加する。</p> <p>一人くらいは、コーディネートする人が必要。現状のままで可能なところは衛藤委員がおっしゃるところにとどめておいて将来に新たに施設を考えるとということがか。</p>
渡邊円世 委員	<p>あまり先延ばししない方がいい。豊後大野市は特に展示ということで前面に売り出していないといけないのではないかとということが議員や市長の考えにある。図書館と資料館、歴史だけではなく、いざとなれば模様替えのところに松原先生の展示もするとかできるようなイメージで受けとめている。</p> <p>資料館部門はそれなりのしっかりしたものを打ち出した方がいい。2,000 m<sup>2</sup>プラス 2,600 m<sup>2</sup>=4,600 m<sup>2</sup>の意気込みがほしい。もうこうなれば今の図書館部分も取り込んで、例えば図書館職員も展示の時は手伝うなどして少ない人数で街の活性に資することができるようなそういう体制が望ましい体制である。</p>
後藤順子 委員	(渡邊円世委員の意見に) 賛成
佐藤委員	<p>僕自身をすっきりさせたい。「あったらいいな! こんな図書館」に応募してここまで来た。途中から川野(前)課長から「資料館もお願いします」となった。僕らは図書館をしっかりしたいために来ている。今日、初めて資料館の話をする。タイトなスケジュールで何もかもここで話をするというのは無理だと思う。高野さんの話、人を増やすなど人材の話は行政の課題。図書館を主において、まず図</p>

	<p>書館を作るべきだと思う。どういう思惑でそうだったかは知らないが。もし図書館にくっつけるとしたら自然史博物館がいい。図書館を主にして、図書館の中にミュージアムとか博物館とか一緒に作らない方がいい。職員が図書館と博物館と行き来するのは無理。まず素晴らしい図書館を作ってそれからの話だと思う。1～2年かけてすべき話である。</p>
委員長	<p>構想はいいが流行っていない博物館、図書館がある。今の豊後大野市を考えて提案した。図書館も博物館も Win-win の関係。将来、双方がほしいとなると面積が足りない。今あるところを有機的にリニューアルする。亀岡は学校跡地を利用した。今がスタートで終わりではない。次に向かって構築していくべきもの。次に発展するものが必要だと思うが。それが妥当だと思う。もしそのようにおっしゃるのであれば世界中でも日本中でもどこでも行く。案を出してくれば。</p>
杉浦委員	<p>最初の段階で、私含めほとんどの方は夢がありすぎていた。機能的に現実を知っている渡部先生が悪役になっている。高野係長（の説明）より埋蔵文化財センターと一緒にできないことがわかった。展示は、コラボで現実的にやれることもわかった。</p> <p>当初の出発点が、「あれもやりたい、これもやりたい」。今の企画展示、常設展示、コラボがいけるのであれば、現実的なだいたいの規模としてどのくらいのところで人数・規模が欲しいと言ったら悪いのかな。落とすところというか。これくらい“あったらいいな”“ほしいな”で良いのでは。</p>
委員長	<p>例えばオープンデスクには、能登川町は管理部門の補佐と学芸員で3人いた。図書館は7～8人いた。そういうイメージ。</p> <p>森山図書館の向こう側に、郷土資料館がある。市の現状、収蔵品が散らばっていることからすると、企画展示のところを常設展示にするのがベスト。図書館もにぎわうし博物館もにぎわう。私（委員長）に任せていただけるとありがたい。</p>
杉浦委員	<p>人数よりも人。技術、知識を持った人が何人、機能があって面積としてこのくらいあったらいいなあ。それがわかればイメージがわく。</p>
委員長	<p>図書館部門に収蔵庫を付ければ、プラス 1,000 m<sup>2</sup>で今の歴史民俗資料館より広い空間はできる。能登川もそう。ざっと計算すると、住宅建築単価にm<sup>2</sup>数をかけると、並の建物ができる。100～200億円というのはナンセンス。心配なのは作ったけども利用されないという状況（に陥ること）。成長していく博物館であったり図書館でないと。知床博物館は成長している。将来的には、そうした専門スタッフを配置して機能するように明記して。今日のところはそういうところで。</p>

工藤委員	図書館はどこゾーンにも人がいた方がいい。歴史民俗資料館の仕事の内容で、例えば埋蔵文化財は、出土品の修復とか、外部の人に邪魔されるとまずいのでは。分けた方が仕事はしやすいのではないか。
委員長	行政の仕事と博物館の仕事は異なる。埋蔵文化財センターは分ける。
工藤委員	図書館と合体というわけにはいかないということ。わかった。
高野	お客さんが来ると研究の手を止めたりします。きちんと対応できる人(スタッフ)、企画・展示する人(スタッフ)と必要です。現在は私のような行政職員がそれらの業務をしている状況であるが、ちゃんとした専門家がいないと成長しないと思います。お客様対応できる施設でないと無理だと思いますし、分館の図書室に人を配置していくのも大切であると思います。成長する新しい施設にするために、技術を持った者がきちんと切り盛りしていく自治体にならないと成功する図書館や資料館にならないと私は思っています。
衛藤委員	これからの課題。基本構想はまとまりつつある。アンケートも点検しながら、整理しながらいくということではないか。
委員長	共同で展示したりするイメージ。コーディネーターが分散型になれば必要になる。建物はいいものがすぐにできる。問題は、市民の暮らしを豊かにすることができるかというのがカギ。造りっぱなしのケースがある。色々意見はでたがこういう形で進めさせていただくということで。今の歴史民俗資料館の機能は、別途どこかに新設、近辺に用意するというでクリアできると思う。ではこういう形で進めていくということで良いか。
一同	(了承)
<b>3. 閉会 (21:03)</b>	
教育長	3時間を超える議論、ありがとうございました。今日出された意見を次回につなげていくということで、よろしくお願いします。
田原副委員長	事務局に質問。今回の話のように、お互いの立場で議論するのも、検討委員会の主旨である。渡部私案も非常によくわかった。このイメージに類するもので非常に立派なものが可能であると思う。最後に答申に向けて作っていただければ、良いと思う。3月13日は予備日となっていたが、今回の提案では答申日となっている。事務局、これで間違いはないか。(はい)
	～閉会～
	～21:05

記録者：小野